

ビジネス実務法務検定試験3級 - 企業財産・知的財産

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q001 BL3-008

企業財産・知的財産 / 所有権 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
所有権は、他人の物を借りる権利にすぎない。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：所有権は物権の中心的権利である。

要点：所有権

Q002 BL3-009

企業財産・知的財産 / 商標権 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
商標権は、商品・サービスの識別標識を保護する権利である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：ブランド名・ロゴなどの保護に関係する。

要点：商標権

Q003 BL3-022

企業財産・知的財産 / 占有 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
占有は、登記がなければ絶対に成立しない。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：占有は事実状態を基礎とする。

要点：占有

Q004 BL3-023

企業財産・知的財産 / 著作権 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
著作権は、思想または感情を創作的に表現した著作物を保護する。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：アイデアではなく表現が保護対象である。

要点：著作権

Q005 BL3-036

企業財産・知的財産 / 不動産登記 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
不動産売買では、登記は第三者との関係で一切意味を持たない。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：対抗要件として登記が問題となる。

要点：不動産登記

ビジネス実務法務検定試験3級 - 企業財産・知的財産

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q006 BL3-037

企業財産・知的財産 / 営業秘密 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
営業秘密として保護されるには、秘密管理性・有用性・非公知性が問題となる。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：不正競争防止法上の要件が重要である。
要点：営業秘密

Q007 BL3-050

企業財産・知的財産 / 動産 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
動産の所有権移転では、引渡しはどの場面でも無意味である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：動産は占有移転が対抗要件となる。
要点：動産

Q008 BL3-051

企業財産・知的財産 / ライセンス契約 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
ライセンス契約は、知的財産権などの利用を許諾する契約である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：利用範囲・期間・対価・禁止事項を明確にする。
要点：ライセンス契約

Q009 BL3-064

企業財産・知的財産 / 特許権 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
特許権は、単なる商号だけを保護する権利である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：発明の技術的思想を保護する。
要点：特許権

Q010 BL3-078

企業財産・知的財産 / 実用新案権 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
実用新案権は、文学作品を保護する権利である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：小発明的な考案を対象とする。
要点：実用新案権

ビジネス実務法務検定試験3級 - 企業財産・知的財産

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q011 BL3-092

企業財産・知的財産 / 意匠権 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
意匠権は、企業秘密だけを保護する制度である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：外観上のデザイン保護が中心である。

要点：意匠権

Q012 BL3-105

企業財産・知的財産 / 所有権 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
所有権は、物を全面的に支配できる物権である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：所有権は物権の中心的権利である。

要点：所有権

Q013 BL3-106

企業財産・知的財産 / 商標権 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
商標権は、発明そのものを保護する権利である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：ブランド名・ロゴなどの保護に関係する。

要点：商標権

Q014 BL3-119

企業財産・知的財産 / 占有 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
占有は、物を事実上支配している状態である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：占有は事実状態を基礎とする。

要点：占有

Q015 BL3-120

企業財産・知的財産 / 著作権 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
著作権は、単なるアイデアそのものを常に保護する。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：アイデアではなく表現が保護対象である。

要点：著作権

ビジネス実務法務検定試験3級 - 企業財産・知的財産

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q016 BL3-133

企業財産・知的財産 / 不動産登記 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
不動産物権変動は、第三者に対抗するため登記が重要となる。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：対抗要件として登記が問題となる。
要点：不動産登記

Q017 BL3-134

企業財産・知的財産 / 営業秘密 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
営業秘密は、社内で公開されていれば秘密管理の有無にかかわらず保護される。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：不正競争防止法上の要件が重要である。
要点：営業秘密

Q018 BL3-147

企業財産・知的財産 / 動産 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
動産物権変動の対抗要件として、引渡しが重要となる。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：動産は占有移転が対抗要件となる。
要点：動産

Q019 BL3-148

企業財産・知的財産 / ライセンス契約 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
ライセンス契約では、権利者の利用許諾は一切問題とならない。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：利用範囲・期間・対価・禁止事項を明確にする。
要点：ライセンス契約

Q020 BL3-161

企業財産・知的財産 / 特許権 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
特許権は、発明を保護する知的財産権である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：発明の技術的思想を保護する。
要点：特許権

ビジネス実務法務検定試験3級 - 企業財産・知的財産

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q021 BL3-178

企業財産・知的財産 / 動産 / 形式：2択

次のうち、「動産」について正しい説明はどちらか。

1. 株式会社では、株式を発行することが法律上禁止されている。
2. 動産物権変動の対抗要件として、引渡しが重要となる。

答え・解説

正答：動産物権変動の対抗要件として、引渡しが重要となる。

超簡単な解説：動産は占有移転が対抗要件となる。

要点：動産

Q022 BL3-179

企業財産・知的財産 / ライセンス契約 / 形式：2択

次のうち、「ライセンス契約」について正しい説明はどちらか。

1. ライセンス契約は、知的財産権などの利用を許諾する契約である。
2. 取締役は、会社法上どの会社にも絶対に不要である。

答え・解説

正答：ライセンス契約は、知的財産権などの利用を許諾する契約である。

超簡単な解説：利用範囲・期間・対価・禁止事項を明確にする。

要点：ライセンス契約

Q023 BL3-192

企業財産・知的財産 / 特許権 / 形式：2択

次のうち、「特許権」について正しい説明はどちらか。

1. 危険負担は、契約関係では一切問題とならない。
2. 特許権は、発明を保護する知的財産権である。

答え・解説

正答：特許権は、発明を保護する知的財産権である。

超簡単な解説：発明の技術的思想を保護する。

要点：特許権

Q024 BL3-206

企業財産・知的財産 / 実用新案権 / 形式：2択

次のうち、「実用新案権」について正しい説明はどちらか。

1. 代理人が契約すると、効果は常に代理人本人にだけ帰属する。
2. 実用新案権は、物品の形状・構造などに係る考案を保護する。

答え・解説

正答：実用新案権は、物品の形状・構造などに係る考案を保護する。

超簡単な解説：小発明的な考案を対象とする。

要点：実用新案権

Q025 BL3-220

企業財産・知的財産 / 意匠権 / 形式：2択

次のうち、「意匠権」について正しい説明はどちらか。

1. 保証人は、主たる債務者と無関係に常に無責任である。
2. 意匠権は、物品等のデザインを保護する権利である。

答え・解説

正答：意匠権は、物品等のデザインを保護する権利である。

超簡単な解説：外観上のデザイン保護が中心である。

要点：意匠権

ビジネス実務法務検定試験3級 - 企業財産・知的財産

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q026 BL3-233

企業財産・知的財産 / 所有権 / 形式：2択

次のうち、「所有権」について正しい説明はどちらか。

1. 所有権は、物を全面的に支配できる物権である。
2. 保証人は、主たる債務者と無関係に常に無責任である。

答え・解説

正答：所有権は、物を全面的に支配できる物権である。

超簡単な解説：所有権は物権の中心的権利である。

要点：所有権

Q027 BL3-234

企業財産・知的財産 / 商標権 / 形式：2択

次のうち、「商標権」について正しい説明はどちらか。

1. 製造物責任では、製造物の欠陥は一切問題とならない。
2. 商標権は、商品・サービスの識別標識を保護する権利である。

答え・解説

正答：商標権は、商品・サービスの識別標識を保護する権利である。

超簡単な解説：ブランド名・ロゴなどの保護に関係する。

要点：商標権

Q028 BL3-247

企業財産・知的財産 / 占有 / 形式：2択

次のうち、「占有」について正しい説明はどちらか。

1. 占有は、物を事実上支配している状態である。
2. 動産の所有権移転では、引渡しはどの場面でも無意味である。

答え・解説

正答：占有は、物を事実上支配している状態である。

超簡単な解説：占有は事実状態を基礎とする。

要点：占有

Q029 BL3-248

企業財産・知的財産 / 著作権 / 形式：2択

次のうち、「著作権」について正しい説明はどちらか。

1. 表見代理は、相手方が悪意でも常に成立する。
2. 著作権は、思想または感情を創作的に表現した著作物を保護する。

答え・解説

正答：著作権は、思想または感情を創作的に表現した著作物を保護する。

超簡単な解説：アイデアではなく表現が保護対象である。

要点：著作権

Q030 BL3-261

企業財産・知的財産 / 不動産登記 / 形式：2択

次のうち、「不動産登記」について正しい説明はどちらか。

1. 不動産物権変動は、第三者に対抗するため登記が重要となる。
2. 強行規定は、当事者が合意すれば自由に排除できる。

答え・解説

正答：不動産物権変動は、第三者に対抗するため登記が重要となる。

超簡単な解説：対抗要件として登記が問題となる。

要点：不動産登記

ビジネス実務法務検定試験3級 - 企業財産・知的財産

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q031 BL3-262

企業財産・知的財産 / 営業秘密 / 形式：2択

次のうち、「営業秘密」について正しい説明はどちらか。

1. 労働者が同意すれば、最低賃金を下回る賃金契約は常に有効である。
2. 営業秘密として保護されるには、秘密管理性・有用性・非公知性が問題となる。

答え・解説

正答：営業秘密として保護されるには、秘密管理性・有用性・非公知性が問題となる。

超簡単な解説：不正競争防止法上の要件が重要である。

要点：営業秘密

Q032 BL3-275

企業財産・知的財産 / 動産 / 形式：2択

次のうち、「動産」について正しい説明はどちらか。

1. 動産物権変動の対抗要件として、引渡しが必要となる。
2. 民事訴訟は、刑罰を科すことだけを目的とする手続である。

答え・解説

正答：動産物権変動の対抗要件として、引渡しが必要となる。

超簡単な解説：動産は占有移転が対抗要件となる。

要点：動産

Q033 BL3-276

企業財産・知的財産 / ライセンス契約 / 形式：2択

次のうち、「ライセンス契約」について正しい説明はどちらか。

1. 履行不能の場合も、必ず履行遅滞だけが成立する。
2. ライセンス契約は、知的財産権などの利用を許諾する契約である。

答え・解説

正答：ライセンス契約は、知的財産権などの利用を許諾する契約である。

超簡単な解説：利用範囲・期間・対価・禁止事項を明確にする。

要点：ライセンス契約

Q034 BL3-289

企業財産・知的財産 / 特許権 / 形式：2択

次のうち、「特許権」について正しい説明はどちらか。

1. 特許権は、発明を保護する知的財産権である。
2. 抵当権は、必ず債権者が目的物を占有しなければ成立しない。

答え・解説

正答：特許権は、発明を保護する知的財産権である。

超簡単な解説：発明の技術的思想を保護する。

要点：特許権

Q035 BL3-303

企業財産・知的財産 / 実用新案権 / 形式：2択

次のうち、「実用新案権」について正しい説明はどちらか。

1. 実用新案権は、物品の形状・構造などに係る考案を保護する。
2. 占有は、登記がなければ絶対に成立しない。

答え・解説

正答：実用新案権は、物品の形状・構造などに係る考案を保護する。

超簡単な解説：小発明的な考案を対象とする。

要点：実用新案権

ビジネス実務法務検定試験3級 - 企業財産・知的財産

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q036 BL3-317

企業財産・知的財産 / 意匠権 / 形式：2択

次のうち、「意匠権」について正しい説明はどちらか。

1. 意匠権は、物品等のデザインを保護する権利である。
2. 権利者であれば、どのような目的でも権利行使は常に認められる。

答え・解説

正答：意匠権は、物品等のデザインを保護する権利である。

超簡単な解説：外観上のデザイン保護が中心である。

要点：意匠権

Q037 BL3-330

企業財産・知的財産 / 所有権 / 形式：2択

次のうち、「所有権」について正しい説明はどちらか。

1. 強迫による意思表示は、被害者の保護対象にならない。
2. 所有権は、物を全面的に支配できる物権である。

答え・解説

正答：所有権は、物を全面的に支配できる物権である。

超簡単な解説：所有権は物権の中心的権利である。

要点：所有権

Q038 BL3-331

企業財産・知的財産 / 商標権 / 形式：2択

次のうち、「商標権」について正しい説明はどちらか。

1. 商標権は、商品・サービスの識別標識を保護する権利である。
2. 景品表示法は、企業の広告表示とは一切関係がない。

答え・解説

正答：商標権は、商品・サービスの識別標識を保護する権利である。

超簡単な解説：ブランド名・ロゴなどの保護に係る。

要点：商標権

Q039 BL3-343

企業財産・知的財産 / 実用新案権 / 形式：4択

次のうち、「実用新案権」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 実用新案権は、物品の形状・構造などに係る考案を保護する。
2. 業務上の災害でも、労災保険は一切関係しない。
3. 任意規定は、当事者の合意によって変更できない。
4. 商号は、個人名以外には法律上認められない。

答え・解説

正答：実用新案権は、物品の形状・構造などに係る考案を保護する。

超簡単な解説：小発明的な考案を対象とする。

要点：実用新案権

Q040 BL3-357

企業財産・知的財産 / 意匠権 / 形式：4択

次のうち、「意匠権」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. ライセンス契約では、権利者の利用許諾は一切問題とならない。
2. 意匠権は、物品等のデザインを保護する権利である。
3. 代理人が契約すると、効果は常に代理人本人にだけ帰属する。
4. 代理では、本人名を一切示さなくても常に本人に効果が帰属する。

答え・解説

正答：意匠権は、物品等のデザインを保護する権利である。

超簡単な解説：外観上のデザイン保護が中心である。

要点：意匠権

ビジネス実務法務検定試験3級 - 企業財産・知的財産

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q041 BL3-370

企業財産・知的財産 / 所有権 / 形式：4択

次のうち、「所有権」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 製造物責任では、製造物の欠陥は一切問題とならない。
2. 連帯保証人は、催告の抗弁権と検索の抗弁権を常に行使できる。
3. 所有権は、物を全面的に支配できる物権である。
4. 代理では、本人名を一切示さなくても常に本人に効果が帰属する。

答え・解説

正答：所有権は、物を全面的に支配できる物権である。
超簡単な解説：所有権は物権の中心的権利である。
要点：所有権

Q042 BL3-371

企業財産・知的財産 / 商標権 / 形式：4択

次のうち、「商標権」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 占有は、登記がなければ絶対に成立しない。
2. 法人は実体がないため、契約の当事者になることはできない。
3. 法律上の善意は、道徳的に親切であることをいう。
4. 商標権は、商品・サービスの識別標識を保護する権利である。

答え・解説

正答：商標権は、商品・サービスの識別標識を保護する権利である。
超簡単な解説：ブランド名・ロゴなどの保護に関係する。
要点：商標権

Q043 BL3-384

企業財産・知的財産 / 占有 / 形式：4択

次のうち、「占有」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 占有は、物を事実上支配している状態である。
2. 代表者が会社名で契約しても、効果は常に代表者個人に帰属する。
3. 時効は、期間が経過すれば裁判所が必ず自動的に適用する。
4. 一度成立した契約は、当事者全員が合意しても解除できない。

答え・解説

正答：占有は、物を事実上支配している状態である。
超簡単な解説：占有は事実状態を基礎とする。
要点：占有

Q044 BL3-385

企業財産・知的財産 / 著作権 / 形式：4択

次のうち、「著作権」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 法律上の善意は、道徳的に親切であることをいう。
2. 債務を履行しなくても、契約責任は一切発生しない。
3. クーリング・オフは、すべての売買契約に無期限で認められる。
4. 著作権は、思想または感情を創作的に表現した著作物を保護する。

答え・解説

正答：著作権は、思想または感情を創作的に表現した著作物を保護する。
超簡単な解説：アイデアではなく表現が保護対象である。
要点：著作権

Q045 BL3-398

企業財産・知的財産 / 不動産登記 / 形式：4択

次のうち、「不動産登記」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 自然人は成年に達しなければ権利能力を取得しない。
2. 権利者であれば、どのような目的でも権利行使は常に認められる。
3. 双務契約では、相手が履行しなくても常に先に履行しなければならない。
4. 不動産物権変動は、第三者に対抗するため登記が重要となる。

答え・解説

正答：不動産物権変動は、第三者に対抗するため登記が重要となる。
超簡単な解説：対抗要件として登記が問題となる。
要点：不動産登記

ビジネス実務法務検定試験3級 - 企業財産・知的財産

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q046 BL3-399

企業財産・知的財産 / 営業秘密 / 形式：4択

次のうち、「営業秘密」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 解除すると、契約違反の有無にかかわらず損害賠償請求は常に禁止される。
2. 申込みは、相手方に届かなくても必ず契約を成立させる。
3. 相殺は、金銭債権同士でも絶対にできない。
4. 営業秘密として保護されるには、秘密管理性・有用性・非公知性が問題となる。

答え・解説

正答：営業秘密として保護されるには、秘密管理性・有用性・非公知性が問題となる。

超簡単な解説：不正競争防止法上の要件が重要である。

要点：営業秘密

Q047 BL3-412

企業財産・知的財産 / 動産 / 形式：4択

次のうち、「動産」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 定型約款は、どのような内容でも相手方を必ず拘束する。
2. 動産物権変動の対抗要件として、引渡しが重要となる。
3. 独占禁止法は、すべての競争を禁止する法律である。
4. 代表取締役は、会社を代表する権限を一切持たない。

答え・解説

正答：動産物権変動の対抗要件として、引渡しが重要となる。

超簡単な解説：動産は占有移転が対抗要件となる。

要点：動産

Q048 BL3-413

企業財産・知的財産 / ライセンス契約 / 形式：4択

次のうち、「ライセンス契約」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 著作権は、単なるアイデアそのものを常に保護する。
2. 景品表示法は、企業の広告表示とは一切関係がない。
3. ライセンス契約は、知的財産権などの利用を許諾する契約である。
4. 双務契約では、相手が履行しなくても常に先に履行しなければならない。

答え・解説

正答：ライセンス契約は、知的財産権などの利用を許諾する契約である。

超簡単な解説：利用範囲・期間・対価・禁止事項を明確にする。

要点：ライセンス契約

Q049 BL3-426

企業財産・知的財産 / 特許権 / 形式：4択

次のうち、「特許権」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 委任は、必ず物の所有権を移転する契約である。
2. 株主総会は、株式会社では存在してはならない機関である。
3. 下請法は、消費者の家族関係だけを定める法律である。
4. 特許権は、発明を保護する知的財産権である。

答え・解説

正答：特許権は、発明を保護する知的財産権である。

超簡単な解説：発明の技術的思想を保護する。

要点：特許権

Q050 BL3-440

企業財産・知的財産 / 実用新案権 / 形式：4択

次のうち、「実用新案権」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 強制執行は、口頭で請求しただけで必ず開始できる。
2. 公序良俗に反する契約でも、書面化すれば常に有効である。
3. 法律行為は、事実行為だけで成立し意思表示を必要としない。
4. 実用新案権は、物品の形状・構造などに係る考案を保護する。

答え・解説

正答：実用新案権は、物品の形状・構造などに係る考案を保護する。

超簡単な解説：小発明的な考案を対象とする。

要点：実用新案権

ビジネス実務法務検定試験3級 - 企業財産・知的財産

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q051 BL3-454

企業財産・知的財産 / 意匠権 / 形式：4択

次のうち、「意匠権」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 意匠権は、物品等のデザインを保護する権利である。
2. 業務上の災害でも、労災保険は一切関係しない。
3. 仮差押えは、債権回収とは一切関係しない。
4. 株式会社では、どのような濫用があっても法人格否認はあり得ない。

答え・解説

正答：意匠権は、物品等のデザインを保護する権利である。
超簡単な解説：外観上のデザイン保護が中心である。

要点：意匠権

Q052 BL3-467

企業財産・知的財産 / 所有権 / 形式：4択

次のうち、「所有権」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 不動産売買では、登記は第三者との関係で一切意味を持たない。
2. 契約は、すべて行政庁の許可がなければ成立しない。
3. 所有権は、物を全面的に支配できる物権である。
4. 法律行為は、事実行為だけで成立し意思表示を必要としない。

答え・解説

正答：所有権は、物を全面的に支配できる物権である。
超簡単な解説：所有権は物権の中心的権利である。

要点：所有権

Q053 BL3-468

企業財産・知的財産 / 商標権 / 形式：4択

次のうち、「商標権」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 労働契約では、使用者に賃金支払義務はない。
2. 商標権は、商品・サービスの識別標識を保護する権利である。
3. 代理人が契約すると、効果は常に代理人本人にだけ帰属する。
4. 使用者は、労働者に何時間でも無制限に働かせることができる。

答え・解説

正答：商標権は、商品・サービスの識別標識を保護する権利である。
超簡単な解説：ブランド名・ロゴなどの保護に関係する。

要点：商標権

Q054 BL3-481

企業財産・知的財産 / 占有 / 形式：4択

次のうち、「占有」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 代表取締役は、会社を代表する権限を一切持たない。
2. 占有は、物を事実上支配している状態である。
3. 商標権は、発明そのものを保護する権利である。
4. 定款は、会社設立後には一切意味を持たない。

答え・解説

正答：占有は、物を事実上支配している状態である。
超簡単な解説：占有は事実状態を基礎とする。

要点：占有

Q055 BL3-482

企業財産・知的財産 / 著作権 / 形式：4択

次のうち、「著作権」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 著作権は、思想または感情を創作的に表現した著作物を保護する。
2. 法律行為は、事実行為だけで成立し意思表示を必要としない。
3. ADRは、裁判所の判決だけを意味する。
4. 売買契約では、買主に代金支払義務は発生しない。

答え・解説

正答：著作権は、思想または感情を創作的に表現した著作物を保護する。
超簡単な解説：アイデアではなく表現が保護対象である。

要点：著作権

ビジネス実務法務検定試験3級 - 企業財産・知的財産

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q056 BL3-495

企業財産・知的財産 / 不動産登記 / 形式：4択

次のうち、「不動産登記」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 製造物責任では、製造物の欠陥は一切問題とならない。
2. 契約は、すべて行政庁の許可がなければ成立しない。
3. 不動産物権変動は、第三者に対抗するため登記が重要となる。
4. 権利者であれば、どのような目的でも権利行使は常に認められる。

答え・解説

正答：不動産物権変動は、第三者に対抗するため登記が重要となる。

超簡単な解説：対抗要件として登記が問題となる。

要点：不動産登記

Q057 BL3-496

企業財産・知的財産 / 営業秘密 / 形式：4択

次のうち、「営業秘密」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 営業秘密として保護されるには、秘密管理性・有用性・非公知性が問題となる。
2. 特許権は、単なる商号だけを保護する権利である。
3. 時効は、期間が経過すれば裁判所が必ず自動的に適用する。
4. 表見代理は、相手方が悪意でも常に成立する。

答え・解説

正答：営業秘密として保護されるには、秘密管理性・有用性・非公知性が問題となる。

超簡単な解説：不正競争防止法上の要件が重要である。

要点：営業秘密